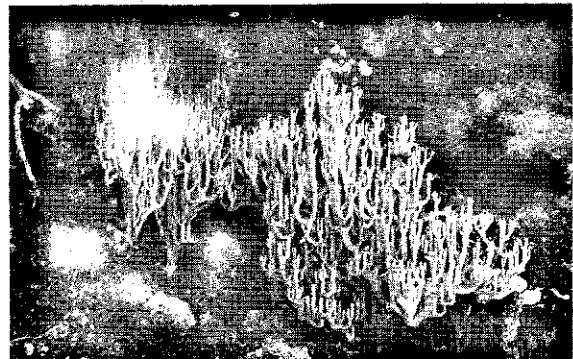


1) レントラマリア亜属／*Ramaria rubella*



2) エチノラマリア亜属／エチノラマリア亜属の一種

ホウキタケに 関して

松井英幸

広島生まれの私は、小さいころ母に連れられ、松茸山を歩きまわっていました。マツタケは私にはまったく取れなかつたのですが、ネズミナバと呼ばれていた、薄紫色がかった灰色の大きなホウキタケの仲間を見つけて喜んだ覚えがあります。今思えば、ウスムラサキホウキタケではなかつたかと思います。ホウキタケとの出会いは、その頃からだったのでしよう。

社会人になって、今関六也先生の親戚の方が上司になり、当時まだ横浜の馬車道に有つた神奈川県立博物館で、今関先生に「きのこ展」を案内していただきました。当時、仕事の関係で自然科学写真協会に入会していた私は、これをきっかけに、きのこの写真を撮り始め、すっかりはまつてしましました。

ところが、写真を撮り始めてみると、きのこの名前がまったく判りません。図鑑をみても、どこにそのきのこが載っているのか判らない、似たようなきのこは載っているが目的のきのこは載っていない、というような状況でした。きのこ仲間に

相談すると、何か一つのグループを勉強すると、全体も見えるようになると言われ、今関先生からも、ホウキタケをやらないかと言われ、コーナーさんの図鑑で70種類ぐらいと聞き、ホウキタケの勉強を始めました。今考えると、楽しみを教えていただいた感謝の気持ちと、とんでもないものに手を出してしまつたと後悔する気持ちとで複雑な気持ちです。

ホウキタケとは、ホウキタケ科ホウキタケ属のラマリア・ボトリティス (*Ramaria botrytis* (Pers.: Fr.) Ricken) に当てられている和名ですが、一般には珊瑚状に枝分かれした軟質菌の総称としても使われています。**ホウキタケという名前は、ホウキタケ属も含む2目5科7属41種に使われています。

私が対象としているホウキタケの仲間は、担子菌で、棍棒状から枝別れをするきのこのグループで、Clavarioid Fungi(クラバリオイド・ファンジャイ)と呼ばれており、イギリスのコーナー氏やアメリカのピータセン氏が権威者として詳しく研究されています。なかでも私の興味の対象は、珊瑚状に枝別れし、胞子がコットンブルーで青く染まるグループ、ホウキタケ科ホウキタケ属です。

ホウキタケ属 (*Ramaria*) には以下の、1) レントラマリア亜属 2) エチノラマリア亜属 3) ラマリア亜属 4) ラエチコロラ亜属の4つの亜属があります。



3) ラマリア亜属／ラマリア亜属の一種

1) レントラマリア亜属 (Subgenus Lentoramaria)
チャホウキタケ、チャホウキタケモドキなどの樹上生のホウキタケ。

2) エチノラマリア亜属 (Subgenus Echinoramaria)

ヒメホウキタケ、ササナバなどの胞子に刺のあるホウキタケ。

3) ラマリア亜属 (Subgenus Ramaria)

ホウキタケのように胞子に縦縞の紋様のあるホウキタケ。

4) ラエチコロラ亜属 (Subgenus Laeticolora)

ハナホウキタケ、キホウキタケ、ウスムラサキホウキタケなどの、胞子に皺から疣状に紋様のあるホウキタケで、ホウキタケ属の中で最大の亜属。このグループはまだ整理されていないため、不明種も多い。

私の手元にあるホウキタケ属の学名のリストでは約300種、おそらく日本には100～200種あるのではないかと思われます。ところが和名についているのがまだ26種、まだまだ日本新産種や新種候補がたくさんあると思われます。日本での研究は遅れているというよりも、研究されていないと言う状況です。そこに、アマチュアでも研究に参加できると言う面白さもあります。2000年から、ラマリア研究会（通称ラマ研）の活動がスタートしました。京都の森本さん、仙台の安藤さんと私の三人が中心メンバーですが、吹春さんや大作さ



4) ラエチコロラ亜属／ウスカワホウキタケ

など千葉菌の方の協力もいただいている。ホウキタケ属の場合も他のグループのきのこと同様に、形態、化学反応など、牛のときに観察しておかなければならぬ項目がたくさんあります。また、乾燥すると組織が膠着する多いため、顕微鏡的な観察もできるだけ新鮮なときに行わなければなりません。各地の、よりたくさんの標本を見て整理する必要もありそうです。

私自身、間違いなくキホウキタケ、ハナホウキタケと言えるものは、まだ確認できていません。また、比較的同定しやすいと言われているホウキタケ (*Ramaria botrytis*) も、何種類かのコンプレックス（複合種）を形成しています。昨年、京都のマツ林でホウキタケと呼ばれているものを送っていただきましたが、*Ramaria botrytis*ではなく、1986年に中国雲南産のもので新種発表されたラマリア・ヘミルベラ (*Ramaria hemirubella*) と思われるものでした。この様に、代表的な種も含め、再検討が必要と思われるものがたくさんあります。

ホウキタケ属以外にも、シロソウメンタケ属のムラサキホウキタケやシロヒメホウキタケ、カレエダタケ属のカレエダタケ、フサヒメホウキタケ属のフサヒメホウキタケなど枝分かれするきのこも多く、興味は尽きませんが、一人ではなかなか見つけられません。採集会で、ホウキタケの仲間を見かけたら、是非、声をかけてください。よろしくお願いします。